

外用ステロイドに対する患者の不安原因についての考察

北澤 由美¹⁾、大津 崇²⁾、前田 守³⁾、長谷川 佳孝³⁾、月岡 良太³⁾、森澤 あずさ³⁾、大石 美也³⁾

- 1) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 つくば篠崎店
- 2) 株式会社アインファーマシーズ
- 3) 株式会社アインホールディングス

【目的】 外用ステロイド剤はアトピー等の様々な皮膚疾患で広く使用されており、OTCとしても販売されている。一方で「ステロイドは怖い薬」という認識も依然として残っているのが現状である。そこで本研究では、外用ステロイド剤に関する意識調査を行い、適正使用に向けた薬局薬剤師の課題について検討した。

【方法】 2020年2～4月間に当保険薬局に来局した患者のうち、外用ステロイドが処方された100名にアンケート調査した。主な項目は「使用期間」「不安の有無と不安原因」「信頼している情報源」「使用頻度の多い情報源」とし、結果は不安の有無で不安群、対照群に分け、カイニ乗検定または Fisher 正確確率検定で解析した。本研究はアイングループ医療研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:AHD-0062)。

【結果】 有効回答94名のうち、不安群37名、対照群57名であった。両群の使用期間は1年以上が最も多かった(不安群45.9%、対照群45.6%)。不安群の不安理由は「副作用が心配(81.1%)」、不安原因は「漠然とした不安(51.4%)」が最も多かった。また、不安群の使用頻度の多い情報源では「インターネット・TVなど(35.1%、8.8%)」が最も多く、対照群よりも有意に高かったが、その信頼度は高くなく(10.8%、1.8%)、両群間に有意差もなかった。

【考察】 不安群の不安理由は副作用に起因することがほとんどであったが、信頼度は高くはないものの、エビデンスが不明確な情報も発信されているインターネットやTVなどを情報源とする頻度が高く、漠然とした不安を誘発している可能性も考えられた。したがって、薬局薬剤師は塗布方法などの説明だけでなく、患者の不安に寄り添い、エビデンスに基づいた情報提供を行うことで、不安の解消に努めることも重要と考える。

(第54回日本薬剤師会学術大会(2021年9月, Web)にて発表)